

# 定期作況報告

令和3年11月  
(11月20日現在)



北見農業試験場

# 1. 気象経過

## 1) 融雪期以降の経過

**4月**：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬が極めて高く、下旬が低かった。月平均気温は5.42℃で平年よりやや高かった(+0.7℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬・下旬とも極めて多く、月合計は108.0mmで平年より極めて多かった(+60.6mm)。日照時間は上旬が少なく、中旬・下旬とも平年並で、月合計は188.9時間で平年並であった(-0.5時間)。

**5月**：平均気温は上旬が平年よりやや低く、中旬が高く、下旬が低かった。月平均気温は10.5℃で平年よりやや低かった(-0.6℃)。降水量は上旬が少なく、中旬が多く、下旬は極めて多く、月合計は78.5mmで平年より多かった(+23.2mm)。日照時間は上旬・中旬が平年並、下旬が少なく、合計は118.9時間でやや少なかった(-66.1時間)。

**6月**：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬・下旬とも極めて高かった。月平均気温は16.6℃で平年より高かった(+1.8℃)。降水量は上旬が平年並、中旬がやや少なく、下旬が少なく、月合計は54.5mmで平年よりやや少なかった(-30.3mm)。日照時間は上旬が多く、中旬がやや多く、下旬が多く、月合計は247.1時間で多かった(+89.8時間)。

**7月**：平均気温は上旬が平年並で、中旬・下旬とも極めて高かった。月平均気温は22.6℃で平年より極めて高かった(+3.2℃)。降水量は上・中・下旬とも平年より少なく、月合計は10.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年並、中旬が多く、下旬が極めて多く、月合計は263.8時間で平年より多かった。

**8月**：平均気温は上旬が平年より高く、中旬が極めて低く、下旬がやや高かった。月平均気温は19.5℃で平年並であった(-0.2℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬・下旬とも少なく、月合計は165.5mmで平年並であった(+3.4mm)。日照時間は上旬がやや少なく、中旬・下旬ともやや多く、月合計は151.7時間で平年並であった(+12.1時間)。

**9月**：平均気温は上旬が平年より極めて低く、中旬が低く、下旬がやや高かった。月平均気温は14.9℃で平年よりやや低かった(-1.2℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬がやや少なく、下旬が多く、月合計は87.0mmで平年よりやや少なかった(-31.9mm)。日照時間は上旬が平年並で、中旬が多く、下旬が平年並で、月合計は180.1時間で平年並であった(+28.2時間)。

**10月**：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬がやや高く、下旬が平年並であった。月平均気温は9.2℃で平年よりやや高かった(+0.7℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬・下旬とも多く、月合計は89.0mmで平年並であった。日照時間は上旬・中旬・下旬とも平年並で、月合計は147.2で平年並であった(-20.6時間)。

**11月**：中旬までの平均気温は5.1℃で、平均気温は上旬・中旬ともに平年より高かった(+2.1℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬が少なく、中旬までの合計は150.5mmで平年より多かった(+114.6mm)。日照時間は上旬が少なく、中旬が平年並で、中旬までの合計は63.2時間でやや少なかった(-25.1時間)。

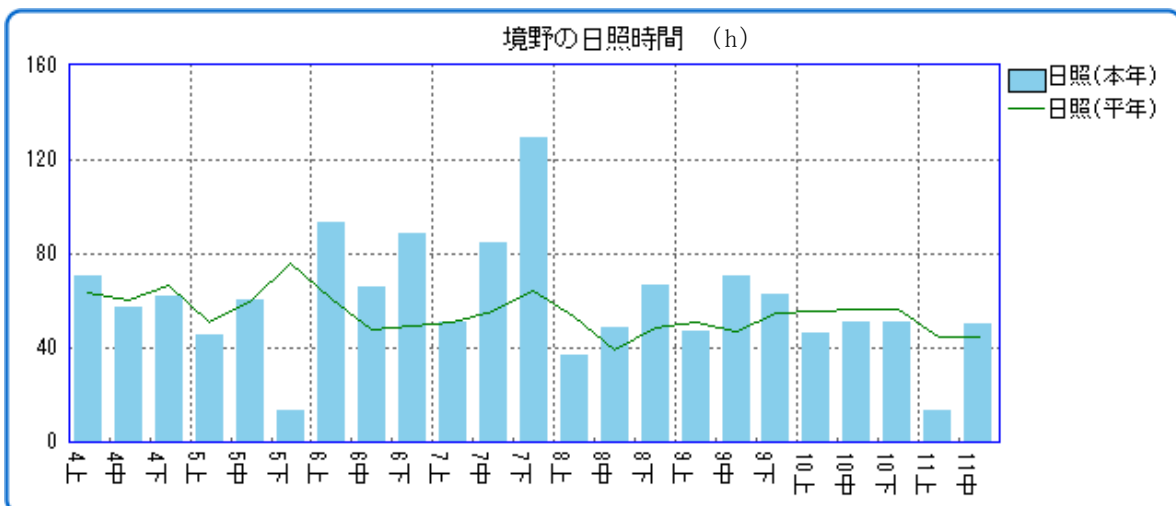
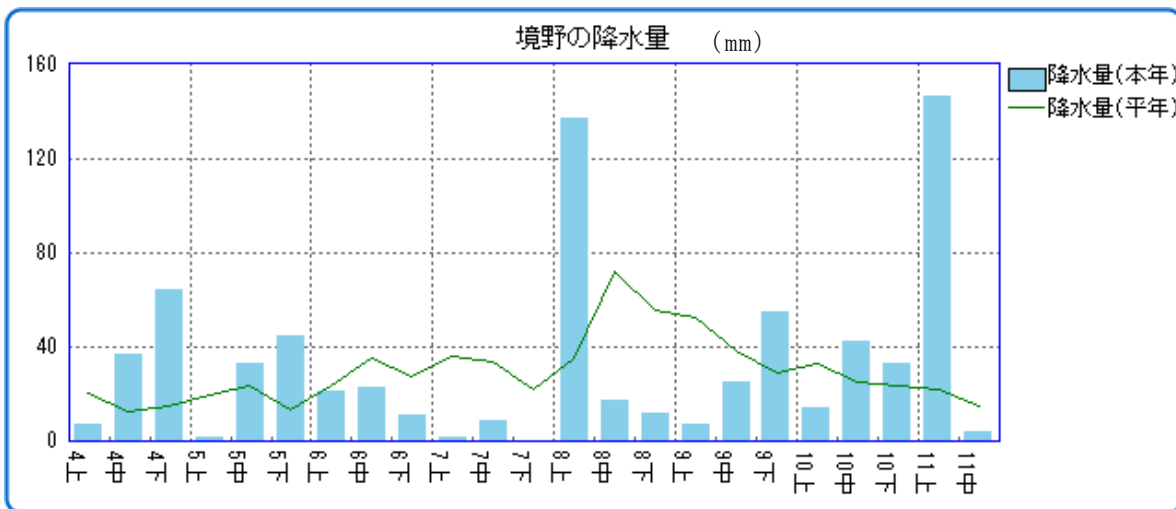
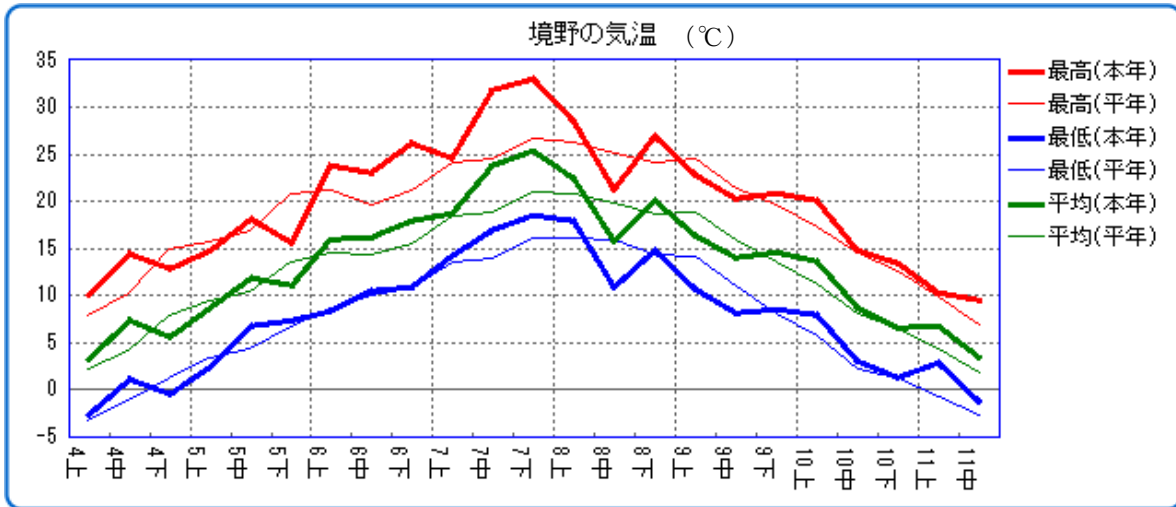
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

**気温**：5月はやや低く、6月は高く、7月は極めて高く、8月は平年並、9月はやや低かった。この期間の日平均気温の積算値は2578.9℃であった(平年差+95.0℃、平年比104%)。

**降水量**：5月は多く、6月はやや少なく、7月は少なく、8月は平年並、9月はやや少なかった。この期間の降水量の積算は395.5mmであった(平年差-116.7mm、平年比77%)。

**日照時間**：5月はやや少なく、6月・7月は多く、8月・9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は961.6時間であった(平年差157.7時間、平年比120%)。

## 2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



### 3) 気象表

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
4月	上旬	3.2	2.2	1.0	10.0	7.9	2.1	-2.6	-3.3	0.7	6.5	20.2	-13.7	70.3	63.2	7.1
	中旬	7.4	4.2	3.2	14.4	10.1	4.3	1.0	-1.2	2.2	37.0	12.3	24.7	56.8	60.3	-3.5
	下旬	5.6	7.8	-2.2	12.7	15.0	-2.3	-0.5	1.1	-1.6	64.5	14.9	49.6	61.8	66.0	-4.2
5月	上旬	8.6	9.4	-0.8	14.7	15.7	-1.0	2.5	3.4	-0.9	1.5	18.9	-17.4	45.4	50.5	-5.1
	中旬	11.9	10.3	1.6	18.1	16.9	1.2	6.7	4.3	2.4	32.5	23.1	9.4	60.0	59.2	0.8
	下旬	11.1	13.5	-2.4	15.5	20.8	-5.3	7.3	6.7	0.6	44.5	13.3	31.2	13.5	75.3	-61.8
6月	上旬	15.9	14.5	1.4	23.8	21.2	2.6	8.3	8.6	-0.3	21.0	22.8	-1.8	92.9	60.9	32.0
	中旬	16.2	14.4	1.8	22.9	19.6	3.3	10.4	10.0	0.4	22.5	34.9	-12.4	65.7	47.7	18.0
	下旬	17.9	15.5	2.4	26.1	21.1	5.0	10.9	10.7	0.2	11.0	27.2	-16.2	88.5	48.7	39.8
7月	上旬	18.6	18.5	0.1	24.5	24.2	0.3	14.2	13.6	0.6	1.5	36.0	-34.5	50.4	50.7	-0.3
	中旬	23.8	18.8	5.0	31.8	24.5	7.3	16.9	14.0	2.9	8.5	33.2	-24.7	84.2	55.5	28.7
	下旬	25.3	20.9	4.4	32.9	26.6	6.3	18.4	16.1	2.3	0.0	21.8	-21.8	129.2	63.9	65.3
8月	上旬	22.5	20.7	1.8	28.4	26.3	2.1	17.9	16.1	1.8	137.0	34.6	102.4	36.3	52.6	-16.3
	中旬	15.8	19.9	-4.1	21.3	25.1	-3.8	10.9	15.8	-4.9	17.0	72.0	-55.0	48.8	39.0	9.8
	下旬	20.1	18.7	1.4	26.9	24.2	2.7	14.8	14.3	0.5	11.5	55.5	-44.0	66.6	48.0	18.6
9月	上旬	16.3	18.9	-2.6	22.8	24.5	-1.7	10.7	14.1	-3.4	7.0	52.3	-45.3	46.5	50.7	-4.2
	中旬	14.0	15.8	-1.8	20.2	21.4	-1.2	8.1	11.0	-2.9	25.0	38.0	-13.0	70.7	46.6	24.1
	下旬	14.5	13.5	1.0	20.9	19.7	1.2	8.5	8.0	0.5	55.0	28.6	26.4	62.9	54.6	8.3
10月	上旬	13.6	11.1	2.5	20.0	17.2	2.8	7.8	5.6	2.2	14.0	32.4	-18.4	45.7	55.5	-9.8
	中旬	8.7	8.0	0.7	14.8	14.6	0.2	2.9	2.2	0.7	42.0	24.9	17.1	50.5	56.0	-5.5
	下旬	6.5	6.5	0.0	13.3	12.5	0.8	1.3	1.1	0.2	33.0	23.2	9.8	51.0	56.3	-5.3
11月	上旬	6.7	4.4	2.3	10.3	9.9	0.4	2.7	-0.7	3.4	146.5	21.6	124.9	13.1	44.2	-31.1
	中旬	3.4	1.7	1.7	9.5	6.8	2.7	-1.4	-2.8	1.4	4.0	14.3	-10.3	50.1	44.1	6.0
4月		5.4	4.7	0.7	12.3	11.0	1.3	-0.7	-1.1	0.4	108.0	47.4	60.6	188.9	189.4	-0.5
5月		10.5	11.1	-0.6	16.1	17.9	-1.8	5.6	4.9	0.7	78.5	55.3	23.2	118.9	185.0	-66.1
6月		16.6	14.8	1.8	24.2	20.6	3.6	9.9	9.7	0.2	54.5	84.8	-30.3	247.1	157.3	89.8
7月		22.6	19.4	3.2	29.8	25.2	4.6	16.6	14.6	2.0	10.0	91.0	-81.0	263.8	170.1	93.7
8月		19.5	19.7	-0.2	25.6	25.2	0.4	14.5	15.4	-0.9	165.5	162.1	3.4	151.7	139.6	12.1
9月		14.9	16.1	-1.2	21.3	21.9	-0.6	9.1	11.0	-1.9	87.0	118.9	-31.9	180.1	151.9	28.2
10月		9.2	8.5	0.7	15.6	14.7	0.9	3.7	2.9	0.8	89.0	80.5	8.5	147.2	167.8	-20.6
11月(中旬まで)		5.1	3.0	2.1	9.9	8.4	1.5	0.6	-1.7	2.3	150.5	35.9	114.6	63.2	88.3	-25.1

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

### 4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	通常の根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	10/16	12/13	3/28	106	5/1	4/12	6/1	10/17	138	11/17
平年	10/13	12/5	4/8	125	4/26	4/25	5/7	10/13	159	11/3
比較	3	8	△ 11	△ 19	5	△ 13	25	4	△ 21	14

期間	項目	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
5月上旬	本年	2578.9	395.5	961.6
	10年平均	2483.9	512.2	803.9
9月下旬	比較	95	-116.7	157.7

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。平年値は前10か年の平均値である。

## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦（令和2年9月播種） 作 況：良

事 由：播種期は平年並の9月16日であった。出芽期は平年より2日早い9月22日であった。出芽後の10月および11月上旬の平均気温はやや高く経過したため、越冬前の草丈、茎数は平年を上回った。根雪始は平年より8日遅い12月13日、根雪終は平年より11日早い3月28日で、根雪期間は平年より19日短かった。調査圃場は融雪材を散布したため、融雪期が根雪の観測地点より14日早い3月14日で、雪腐病の発生は認められなかった。

コムギ縞萎縮病が発生し、全ての反復で萎縮症状が認められた。出穂期は平年より2日遅い6月9日であった。登熟期間の6月中旬以降、気温は高く、降水量が少なく推移したため、登熟は極めて早まり、成熟期は平年より5日早い7月19日であり、登熟期間は平年より7日短かった。稈長、穂長は平年並で、穂数は多かった。また、登熟期間の日照時間が多かったため子実重は平年比116%であった。リットル重は平年をやや上回り、千粒重は平年をやや下回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (令和2年月.日)	9.16	9.16	0
出芽期 (令和2年月.日)	9.22	9.24	△2
出穂期 (令和3年月.日)	6.9	6.7	2
成熟期 (令和3年月.日)	7.19	7.24	△5
草丈(cm) (令和2年11月20日)	22.9	18.8	4.1
草丈(cm) (令和3年5月20日)	38.7	39.3	△0.6
草丈(cm) (令和3年6月20日)	91.3	90.4	0.9
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (令和2年11月20日)	1758	1245	513
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (令和3年5月20日)	1540	1461	79
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (令和3年6月20日)	925	728	197
稈長(cm) (成熟期)	82	80	2
穂長(cm) (成熟期)	8.5	8.5	0.0
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (成熟期)	825	690	135
子実重(kg/10a)	849	731	118
同上平年比(%)	116	100	16
リットル重(g)	809	803	6
千粒重(g)	39.0	40.3	△1.3
品質(検査等級)	1	1	-

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均値。

2) 秋まき小麦（令和3年9月播種） 作 況：やや良

事 由：播種期は平年より7日早い9月16日であった。出芽期は平年より7日早い9月23日であった。播種が早く、出芽期以降の平均気温が平年並から高く経過したため、越冬前の草丈、茎数は平年を上回った。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期（令和3年月.日）	9.16	9.23	△7
出芽期（令和3年月.日）	9.23	9.30	△7
草丈(cm)（令和3年11月20日）	19.6	14.2	5.4
茎数(本/m <sup>2</sup> )（令和3年11月20日）	1316	960	356

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、令和2年(最凶)を除く5か年の平均値。

## 3) 春まき小麦

作 況 : 良

事 由 : 調査圃場は融雪材散布により3月16日に融雪期となった。3月下旬から4月上旬の気温は高く、降水量は少なかったため、圃場の乾燥が進み、播種期は平年より3日早い4月12日であった。播種後の4月下旬の気温は低く推移し、出芽期は平年並から1日早かった。出穂期は平年より4～5日遅かった。稈長、穂長は平年よりやや長く、穂数は平年より少なかった。7月19日の降雨によって「春よ恋」で倒伏が発生した。7月中旬以降に高温で推移したため、成熟期は平年より6日早く、登熟期間は平年より短かった。一方、登熟期間の日照が多く、登熟条件が良好であったため、子実重は平年比108～127%で多収となった。リットル重は平年並から上回り、千粒重は平年を上回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.12	4.15	△ 3	4.12	4.15	△ 3	
出芽期 (月.日)	4.29	4.29	0	4.29	4.30	△ 1	
出穂期 (月.日)	6.24	6.20	4	6.23	6.18	5	
成熟期 (月.日)	7.31	8.6	△ 6	8.3	8.9	△ 6	
草丈 (cm)	(5月20日)	18.9	19.8	△ 0.9	20.3	20.6	0.3
	(6月20日)	81.8	71.7	10.1	79.6	70.6	8.7
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	(5月20日)	460	582	△ 122	511	559	△ 48
	(6月20日)	703	799	△ 96	744	780	△ 36
稈長 (cm) (7月20日)	100	96	4	99	92	7	
穂長 (cm) (7月20日)	8.8	8.3	0.5	8.2	7.8	0.4	
穂数 (本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	516	664	△ 148	554	666	△ 112	
子実重 (kg/10a)	575	534	40	648	510	138	
同上平年比 (%)	108	100	8	127	100	27	
リットル重 (g)	793	795	△ 2	813	791	22	
千粒重 (g)	42.3	39.4	2.9	48.1	40.7	7.4	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、27年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

## 4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや不良

事 由 : 播種期は平年より3日遅い5月18日、出芽期は平年より4日遅い6月3日であった。6月下旬以降、平均気温は高く推移し、開花期は平年より4日、抽糸期は平年より3日早かった。6月中旬から7月下旬まで著しい干ばつ傾向となった影響により、8月20日時点の草丈は平年より47.5cm低い243.1cmであった。収穫期は平年より4日遅い9月28日であり、総体の乾物率は平年より4.4ポイント高かったものの、収穫時の熟度は黄熟初期と平年並であった。収穫時の稈長が平年より39cm低かったことから、乾物茎葉重は平年より112kg/10a少なく、乾物総重および推定TDN収量は平年比93%および94%とやや少なかった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.18	5.15	3	
出芽期 (月.日)	6.3	5.30	4	
開花期 (月.日)	7.27	7.31	△4	
抽糸期 (月.日)	7.28	7.31	△3	
収穫期 (月.日)	9.28	9.24	4	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期		
草丈 (cm)	(6月20日)	27.9	34.9	△7.0
	(7月20日)	175.4	176.6	△1.2
	(8月20日)	243.1	290.6	△47.5
稈長 (cm)	(9月20日)	222	261	△39
葉数 (枚)	(6月20日)	4.6	5.3	△0.7
	(7月20日)	13.0	12.9	0.1
	(8月20日)	14.6	14.8	△0.2
生総重 (kg/10a)	5224	6447	△1223	
乾物茎葉重 (kg/10a)	797	909	△112	
乾物雌穂重 (kg/10a)	992	1016	△24	
乾物総重 (kg/10a)	1790	1925	△135	
同上平年比 (%)	93	100	△7	
推定TDN収量 (kg/10a)	1307	1393	△86	
同上平年比 (%)	94	100	△6	
総体の乾物率 (%)	34.3	29.9	4.4	
乾雌穂重割合 (%)	55.4	55.3	0.1	
有効雌穂割合 (%)	100.0	99.1	0.9	

注1) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。



## 5) 大豆

### 作 況：やや不良

事由：播種は平年並の5月21日に行い、低温寡照により出芽期は平年より4日遅い6月7日であった。6月下旬から高温傾向が続き、開花始は平年より6日早かったが、極端な少雨だったため生育はやや抑制傾向であった。8月初旬に集中的な降雨があった後、再び少雨傾向が続いた。以降の気温は8月上・中旬は低くその後は概ね平年並に経過した。成熟期は平年より11日早く、成熟期における主茎長はやや短く、主茎節数は同等、分枝数は多く、着莢数はわずかに多かった。一莢内粒数は平年より多かったが、百粒重は平年より1割程度軽く、子実重は平年比95%とやや低収であった。屑粒率はやや低く、外観品質は優った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目		ユキホマレ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.21	5.21	0
出芽期	(月.日)	6.7	6.3	4
開花始	(月.日)	7.15	7.21	△ 6
成熟期	(月.日)	9.14	9.25	△ 11
主茎長 (cm)	(6月20日)	9.1	11.1	△ 2.0
	(7月20日)	50.4	49.1	1.3
	(8月20日)	58	64.2	△ 6.2
	(9月20日)	61	64	△ 3.0
	(成熟期)	61.0	64.0	△ 3.0
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.3	0.8	0.5
	(7月20日)	8.1	7.3	0.8
主茎節数	(8月20日)	10.7	10.4	0.3
	(9月20日)	10.4	10.3	0.1
	(成熟期)	10.4	10.2	0.2
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5.3	4.3	1.0
	(8月20日)	5.7	5.6	0.1
	(9月20日)	5.7	4.8	0.9
	(成熟期)	5.7	4.9	0.8
着莢数 (個/株)	(8月20日)	78.1	78.5	△ 0.4
	(9月20日)	73.2	71.7	1.5
	(成熟期)	73.2	71.1	2.0
一莢内粒数		2.09	1.92	0.17
子実重 (kg/10a)		325	342	△ 17
同上平年比 (%)		95	100	△ 5
百粒重 (g)		28.8	31.6	△ 3
屑粒率 (%)		1.2	1.7	△ 0.5
品質 (検査等級)		1等	2上	

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

6) 小豆 作況：平年並

事由：播種は平年並の5月21日に行い、低温寡照により出芽期は平年より4～5日遅れ6月10～11日だった。6月下旬以降は高温傾向が続いたが、極端な少雨だったため生育は抑制傾向で、開花始は平年と比較して「きたろまん」では4日早い7月20日だったが、「エリモショウズ」では3日遅い7月26日だった。7月中下旬の著しい高温少雨により落花し着莢は遅れた。成熟期は「エリモショウズ」が平年より1日早い9月28日、「きたろまん」が平年より3日遅い9月29日だった。平年と比較して「エリモショウズ」は主茎長が短く、主茎節数と分枝数が多く、着莢数と一莢内粒数がやや少なかった。「きたろまん」は主茎長がやや短く、主茎節数が多く、分枝数が少なく、着莢数がやや多く、一莢内粒数が少なかった。子実重は、「エリモショウズ」が平年の94%、「きたろまん」が同107%と、品種によって傾向が異なった。百粒重はいずれも平年より重く、屑粒率は虫害により高く、等級はわずかに劣った。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	エリモショウズ			きたろまん			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	
出芽期 (月.日)	6.10	6.6	4	6.11	6.6	5	
開花始 (月.日)	7.26	7.24	2	7.20	7.24	△ 4	
成熟期 (月.日)	9.28	9.29	△ 1	9.29	9.26	3	
主茎長 (cm)	(6月20日)	4.2	4.3	△ 0.1	3.4	4.1	△ 0.7
	(7月20日)	18	19.9	△ 1.9	15.7	18.7	△ 3.0
	(8月20日)	61.7	70.4	△ 8.7	64.3	66.5	△ 2.2
	(成熟期)	64.8	74.3	△ 9.5	68.6	70.5	△ 1.9
本葉数 (枚)	(6月20日)	63.6	74.9	△ 11.3	66.4	69.4	△ 3.0
	(7月20日)	0.3	0.6	△ 0.3	0.3	0.6	△ 0.3
主茎節数	(8月20日)	15.6	14.0	1.6	15.0	13.0	2.0
	(9月20日)	15.9	14.0	1.9	14.9	12.9	2.0
	(成熟期)	16.1	13.8	2.3	15.4	13.0	2.4
分枝数 (本/株)	(7月20日)	2.6	2.3	0.3	2.1	1.8	0.3
	(8月20日)	5.1	4.0	1.1	3.4	3.4	0.0
	(9月20日)	4.6	4.2	0.4	3.3	3.4	△ 0.1
	(成熟期)	4.7	4.3	0.4	3.2	3.4	△ 0.2
着莢数	(8月20日)	43.6	40.1	3.5	43.9	37.2	6.7
	(9月20日)	49.4	50.0	△ 0.6	48.2	47.4	0.8
	(成熟期)	49.2	51.5	△ 2.3	50.7	48.5	2.2
一莢内粒数	6.27	6.43	△ 0.16	5.77	6.45	△ 0.68	
子実重 (kg/10a)	353	375	△ 22	390	365	25	
同上平年比 (%)	94	100	△ 6	107	100	7	
百粒重 (g)	16.5	15.0	1.5	19.0	16.1	2.9	
屑粒率 (%)	15.8	0.6	15.2	19.8	5.6	14.2	
品質 (検査等級)	4上	3下		4上	3下		

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 7) 菜豆

作況：不良

事由：播種は平年並の5月21日に行った。低温寡照により出芽期は平年より5日遅い6月7日であった。6月下旬から高温傾向が続き、開花始は平年より4日早い7月6日であった。その後7月下旬まで続いた著しい高温少雨傾向により登熟は急激に進み、成熟期は平年より17日早い8月17日であった。草丈、主茎節数、分枝数はいずれも平年を下回った。着莢数は多く、一莢内粒数もやや多かったが、百粒重は平年の7割以下と極端な小粒で、子実重は平年比74%と極めて低収であった。小粒により屑粒率は平年を大きく上回り、等級はわずかに劣った。以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.21	5.21	0	
出芽期 (月.日)	6.7	6.2	5	
開花始 (月.日)	7.6	7.10	△ 4	
成熟期 (月.日)	8.17	9.3	△ 17	
草丈 (cm)	(6月20日)	8.7	11.0	△ 2.3
	(7月20日)	35.5	36.2	△ 0.7
	(8月20日)	34.9	40.6	△ 5.7
	(成熟期)	34.9	40.8	△ 5.9
本葉数(枚)	(6月20日)	1.1	0.8	0.3
	(7月20日)	3.1	4.0	△ 0.9
主茎節数	(8月20日)	5.0	5.5	△ 0.5
	(成熟期)	5.0	5.5	△ 0.5
分枝数(本/株)	(7月20日)	3.7	5.6	△ 1.9
	(8月20日)	4.0	5.3	△ 1.3
	(成熟期)	4.0	5.4	△ 1.4
着莢数(個/株)	(8月20日)	23.2	20.7	2.5
	(成熟期)	23.2	20.7	2.5
一莢内粒数	2.90	2.79	0.11	
子実重(kg/10a)	225	306	△ 81	
同上平年比(%)	74	100	△ 26	
百粒重(g)	45.1	65.9	△ 20.8	
屑粒率(%)	41.9	13.9	28.0	
品質(検査等級)	4上	3下		

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒は、農産物検査規格における被害粒および未熟粒に準じる。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

8) ばれいしょ 作況：良

事由：植え付けは平年より2日遅い5月12日に行った。植え付けの遅れに加え、5月下旬の平均気温が低かったため、萌芽期は平年より4日遅かった。両品種ともに開花始は平年並で、茎数も平年並であったが、6～8月の気温が高かったことと、7月の降水量が少なかったことから、茎長は平年より低かった。しかし、上いも数は平年より多く、8月上旬に十分な量の降水があったことから、塊茎の肥大が急激に進んだ。「男爵薯」では、黄変が始まった頃から茎葉の再生が見られ、枯ちよう期は平年より23日遅い9月24日であった。上いも数、上いも平均重が平年を大きく上回ったため、上いも重は平年比134%であった。「コナユタカ」の枯ちよう期は降霜の影響によって平年より7日遅い10月20日であった。上いも平均重は平年よりも小さかったものの、上いも数が平年よりも多く、でん粉価は1.1%高かったことから、でん粉重は平年比110%と多かった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目		男爵薯			コナユタカ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月.日)	5.12	5.10	2	5.12	5.10	2
萌芽期	(月.日)	6.3	5.30	4	6.6	6.2	4
開花始	(月.日)	6.29	6.29	0	7.3	7.4	△ 1
枯ちよう期	(月.日)	9.24	9.1	23	10.20	10.13	7
茎長(cm)	(6月20日)	16.7	23.5	△ 6.8	9.6	13.3	△ 3.7
	(7月20日)	44	55	△ 12	62	75	△ 13
	(8月20日)	44	55	△ 11	74	97	△ 23
茎数(本/株)	(6月20日)	4.4	3.9	0.5	2.2	2.7	△ 0.5
	(7月20日)	4.9	4.4	0.5	2.7	2.9	△ 0.2
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	5409	4649	760	3906	3835	71
	(9月20日)	6186	4611	1575	5315	5716	△ 401
でん粉価(%)	(8月20日)	15.7	15.1	0.6	18.7	19.1	△ 0.4
	(9月20日)	16.6	15.0	1.6	19.4	21.0	△ 1.6
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	-	-	-	981	1129	△ 148
上いも数(個/株)		12.2	10.3	1.9	10.4	8.9	1.5
上いも平均重(g)		114	103	11	145	168	△ 23
上いも重(kg/10a)		6186	4611	1575	6738	6475	263
同上平年比(%)		134	100	34	104	100	4
でん粉価(%)		16.6	15.0	1.6	22.6	21.5	1.1
でん粉重(kg/10a)		-	-	-	1456	1323	133
同上平年比(%)		-	-	-	110	100	10

注) 平年値は前7か年中、平成30年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

## 9) てんさい

作 況 : 良

事 由 : 移植栽培の播種は、平年より1日遅い3月24日に行った。以降、4月中旬まで気温が高めに経過したため、育苗期間中の苗の生育は非常に良好であった。移植は、平年より2日遅い5月6日に行った。移植前の降雨で土壌が湿潤であったため、活着は順調であった。直播栽培の播種期は、平年より2日遅い5月7日であったが、その後十分な降雨があり気温も高めであったため出芽がやや早まり、出芽期は平年より1日遅い5月18日であった。

以降、6月中旬までは、最高気温が平年より高く、降水量が十分であったため、生育が平年より進んだ。

その後、6月下旬から8月上旬までの高温乾燥により、地上部の生育がかなり抑制された。一方、根部は平年を上回る肥大が続いた。

8月10日の多雨以降は、高温乾燥状況が解消され、根部は、収穫期まで平年を上回る肥大が続いた。

根中糖分は、9月上中旬の最低気温が平年を下回り、降水量も少なかったため、順調に上昇したが、9月下旬以降最低気温が平年を上回り降水量も多くなったため、その後の上昇は抑制された。

収穫は、ほぼ平年並の10月19日に行った。収穫期の根重は、移植栽培、直播栽培ともに平年より多かった（平年比120～134%）。根中糖分は平年よりやや低く（平年比94～97%）、糖量は平年より多かった（平年比115～125%）。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

表

調査項目		移植					直播			
		リッカ			アマホマレ			リッカ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	3.24	3.23	1	3.24	3.23	1	5.7	5.5	2
移植期	(月.日)	5.6	5.4	2	5.6	5.4	2	-	-	-
出芽期	(月.日)	-	-	-	-	-	-	5.18	5.17	1
収穫期	(月.日)	10.19	10.19	0	10.19	10.19	0	10.19	10.20	△ 1
草丈 (cm)	(5月20日)	7.2	7.4	△ 0.2	7.4	7.0	0.4	-	-	-
	(6月20日)	27.9	25.4	2.5	29.6	25.8	3.8	18.0	13.2	4.8
	(7月20日)	47.3	53.0	△ 5.7	46.9	52.9	△ 6.0	48.5	48.1	0.4
	(8月20日)	48.9	59.3	△ 10.4	46.7	59.0	△ 12.3	53.5	63.4	△ 9.9
	(9月20日)	46.8	61.3	△ 14.5	48.5	61.4	△ 12.9	56.6	64.7	△ 8.1
生葉数 (枚)	(5月20日)	6.6	5.6	1.0	4.9	5.0	△ 0.1	-	-	-
	(6月20日)	11.8	11.7	0.1	13.0	11.6	1.4	8.7	8.0	0.7
	(7月20日)	18.1	18.6	△ 0.5	21.0	20.2	0.8	16.1	15.6	0.5
	(8月20日)	19.0	23.2	△ 4.2	22.9	25.9	△ 3.0	20.8	21.7	△ 0.9
	(9月20日)	23.5	25.2	△ 1.7	28.2	28.8	△ 0.6	22.9	23.7	△ 0.8
茎葉重 (g/個体)	(6月20日)	126	82	44	156	81	75	33	12	21
	(7月20日)	483	503	△ 20	551	551	0	445	338	107
	(8月20日)	460	749	△ 289	498	824	△ 326	544	750	△ 206
	(9月20日)	446	707	△ 261	555	840	△ 285	603	741	△ 138
根重 (g/個体)	(6月20日)	25	16	9	39	19	20	2	0.8	1
	(7月20日)	365	253	112	426	265	161	212	113	99
	(8月20日)	831	745	86	777	735	42	684	552	132
	(9月20日)	1163	1069	94	1121	1028	93	1050	877	173
根周 (cm)	(7月20日)	24.3	21.7	2.6	26.1	23.0	3.1	20.5	16.1	4.4
	(8月20日)	32.9	32.1	0.8	34.2	32.7	1.5	30.0	27.8	2.2
	(9月20日)	36.7	36.0	0.7	37.9	37.5	0.4	34.5	32.9	1.6
根中糖分 (%)	(9月20日)	17.26	16.50	0.76	18.83	16.90	1.93	17.18	16.20	0.98
茎葉重 (kg/10a)	(収穫期)	3750	4399	△ 649	4600	5494	△ 894	4560	4823	△ 263
根重 (kg/10a)	(収穫期)	9480	7747	1733	8400	6982	1418	8530	6378	2152
同上平年比(%)		122	100	22	120	100	20	134	100	34
根中糖分(%)		17.22	18.28	△ 1.06	18.50	19.09	△ 0.59	17.04	18.22	△ 1.18
同上平年比(%)		94	100	△ 6	97	100	△ 3	94	100	△ 6
糖量(kg/10a)		1628	1415	213	1553	1331	222	1453	1160	293
同上平年比(%)		115	100	15	117	100	17	125	100	25

注 1) 平年値は前 7 か年中、平成 26 年(最豊), 28 年(最凶)を除く 5 か年の平均。

## 10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 不良

事 由 : 萌芽期は平年より13日早い4月9日であり、冬損は認められなかった。

1 番草 ; 5月下旬が平年より低温、寡照で経過したが、6月以降は高温多照で経過したため、出穂始は平年と同日で出穂期は平年より1日早かった。収穫は平年より2日早い6月16日に行った。刈取時の草丈および出穂程度は平年並であり、乾物収量は平年比97%と平年並であった。

2 番草 ; 収穫は平年より3日早い8月4日に行った。前番草収穫後は平年に比べて著しい高温少雨が続いたことから再生が進まず、収穫時の草丈は平年より27cm短く、節間伸長程度も平年より低かった。そのため2番草の乾物収量は平年比43%と非常に少なかった。

3 番草 ; 収穫は平年より3日遅い10月6日に行った。2番草刈取後は気温の高い旬が多く、日照時間も8月中旬以降平年並から多く推移した。3番草の乾物収量は平年比131%と多かった。

結果、1～3番草の合計乾物収量は平年比89%と平年を11%下回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

表 その1

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.09	4.22	△13
冬損程度		1.0	1.2	△0.2
被度(%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.11	6.11	0
出穂期	(月.日)	6.14	6.15	△1
出穂程度	1番草	8.0	8.0	0.0
節間伸長程度	2番草	2.9	4.0	△1.1
刈取日(月.日)	1番草	6.16	6.18	△2
	2番草	8.04	8.07	△2
	3番草	10.06	10.03	3
倒伏程度	1番草	1.5	1.0	0.5
病害罹病程度	1番草	1.0	1.0	0.0
	2番草	1.5	2.1	△0.6
	3番草	3.5	3.1	0.4
草丈(cm)	(5月20日)	47	38	9
	(6月5日)	83	73	10
	1番草	106	98	8
	2番草再生時	29	39	△10
	2番草	40	67	△27
	3番草再生時	40	37	3
生草収量(kg/10a)	3番草	42	39	3
	1番草	2,537	2,471	66
	2番草	251	922	△671
	3番草	576	439	137
	合 計	3,364	3,833	△469

表 その2

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
乾物率(%)	1番草	21.8	23.1	△1.3
	2番草	36.3	23.8	12.5
	3番草	29.0	29.0	0
乾物収量(kg/10a)	1番草	552	569	△17
	同上平年比(%)	97	100	△3
	2番草	91	213	△122
	同上平年比(%)	43	100	△57
	3番草	167	127	40
	同上平年比(%)	131	100	31
	合計	810	909	△99
	同上平年比(%)	89	100	△11

注1) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊)、令和元年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。



付表1 各作物の耕種概要

作物名	一区面積 (㎡)	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株本数	播種粒数 (粒/㎡)	播種量 (kg/10a)	株数 (株/10a)
1. 秋まき小麦 令和2年播種	7.2	4	緑肥大豆	30.0	条播	-	255	-	-
令和3年播種	5.4	4	ひまわり	20.0	ドリル	-	255	-	-
2. 春まき小麦	6.0	4	緑肥大豆	30.0	条播	-	340	-	-
3. とうもろこし	11.2	3	緑肥えん麦	75.0	17.8	1	-	-	7,491
4. 大豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	-	-	8,333
5. 小豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	-	-	8,333
6. 菜豆	9.6	3	緑肥そば	60.0	20.0	2	-	-	8,333
7. ばれいしょ	37.8	3	緑肥えん麦	75.0	30.0	1	-	-	4,444
8. てんさい	39.6	3	緑肥野生えん麦	60.0	23.8	1	-	-	7,003
9. 牧草 (チモシー)	2.7	4	緑肥えん麦	30.0	条播	-	-	2.0	-

付表2 各作物の耕種概要

作物名	施肥量 (kg/10a)						備考
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	堆肥	その他	
1. 秋まき小麦 令和2年播種	6.0	18.8	7.5	3.8		起生期追肥 N: 3.0	令和3年播種より変更 (* ) 令和4年4月予定
令和3年播種	5.6	17.5	7.0	3.5		起生期追肥 N: 5.0(*)	
2. 春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0			2年目草地 年間3回分施
3. とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0	3,000	炭カル: 150	
4. 大豆	1.8	15.0	7.8	3.0			
5. 小豆	4.0	20.0	11.2	4.0			
6. 菜豆	4.0	20.0	11.2	4.0			
7. ばれいしょ	8.0	20.0	14.0	5.0			
8. てんさい	15.0	30.0	12.3	6.8			
9. 牧草 (チモシー)	15.0	15.0	15.0	3.0		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     造成時 炭カル: 200 ダブリン: 30                 </div>	